

第19回“魂の俳人”  
藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

# 藤枝市村越化石

## 俳句大会について

平成十四年、藤枝市岡部町出身の村越化石氏の功績を顕彰して、藤枝市岡部町新舟に句碑を建立すると同時に創設されたものです。大会の主旨は、村越化石氏の俳句の世界の理解、俳句に人生の豊かさを見出している方々に作品発表の機会を作ること、そして初心者をはじめ小中学生の皆さんが俳句に親しみ、楽しんでいただくことを目指しております。

## ”魂の俳人“村越化石

村越化石氏は大正十二年藤枝市岡部町に生まれ、ハンセン病を発症し、十六歳のとき治療のため離郷。

その後、俳人大野林火氏に師事し、精進に精進を重ねて数々の立派な作品を生みだし、「魂の俳人」として数多くの賞を受賞しています。

昭和五十八年

第十七回蛇笏賞 受賞

平成三年

紫綬褒章 受章

平成二十六年三月八日

死去（九十一歳）

# 選者紹介



せき もり かつ お  
**関森勝夫氏**

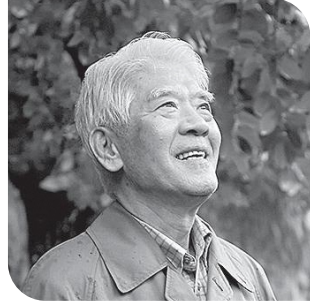
俳誌「蜻蛉」主宰

「大野林火」氏に師事（村越化石氏の同門）

静岡県立大学名誉教授

俳人協会顧問、俳人協会静岡支部顧問、国際俳句交流協会評議員、

日本文藝家協会会員、日本詩歌文学館評議員



おお ぐし あきら  
**大串章氏**

俳誌「百鳥」主宰

「大野林火」氏に師事（村越化石氏の同門）

朝日新聞俳壇・愛媛新聞俳壇選者

俳人協会会長、日本文藝家協会理事、日本現代詩歌文学館常任理事

第九回俳人協会評論賞受賞、第四十五回俳人協会賞受賞

# 村越化石賞

大串章氏選

## 一般の部

橋本信枝

藤枝市水上

〔講評〕

長年連れ添い、共白髪となった夫婦が花野を歩いてゆく。萩・桔梗など秋の七草のほか、名を知らない草花もいろいろ咲いている。穂やかで広々とした花野を歩いてゆくと、さまざまな事を思い出し懐かしい。「花野の風をきく」が言い得て妙。

## 中学生の部

疋野ももこ

青島中学校・2年

〔講評〕

蟬が鳴き立てる夏の暑い日、魂を燃やして部活動に励んでいる。部活動と言うと運動系の野球やテニス、文化系の吹奏楽など思うが、掲句の部活動は何だろう。何れにしてもその努力に拍手！

## 小学生の部

佐々木海琉

青島北小学校・6年

〔講評〕

海の家に風鈴がたくさん並んでいる。鉄風鈴や貝風鈴など音色もさまざま。まるで管楽器や打楽器による大合奏のよう。「風鈴たちのオーケストラ」とはうまく表現しましたね。素晴らしい。

## 海の家風鈴たちのオーケストラ

## せみしぐれ魂燃える部活動

## 共白髪となりて花野の風をきく



# 市長賞

大串章氏選

## 一般の部

## 中学生の部

鮎はねて魚道の水がすきとおる

伊藤 楽

藤枝中学校・1年

〔講評〕

鮎が跳ねあがり川の水が透き通って見える。明るく健やかな光景である。鮎は春になると川を遡り、秋には上流の瀬で産卵する。因みに、「魚道」は鮎の遡上を助けるために設けられた工作物。

よく通る卒寿の声や稲の花

武藤 洋一

群馬県前橋市

〔講評〕

輝く稲の花の向こうから卒寿翁の声が聞こえてくる。かなり離れているがはっきり聞こえる。「卒寿の声」が「よく通る」とは素晴らしい。因みに、声がよく通るとは、周囲に雑音が多くても聞き取りやすく、距離が離れていても内容が分かること。

# 教育長賞

関森勝夫氏選

## 一般の部

野上卓

東京都世田谷区

〔講評〕

春が早い南国の島の空港。着陸態勢に入り高度を下げて行く機内の窓から見下した景であろう。滑走路の誘導灯がおぼろに点々と列を成して見えたのである。明日から始まる島での出会いに、作者の期待感がたかぶつていくことが感受される。

## おぼろめく島の着陸誘導灯

## 小学生の部

竹嶋優璃

葉梨小学校・3年

〔講評〕

保護犬を引き取ったばかりは家族になつかなく、苦労していたのだが、日がたつにつれて心を開くようになり、夏休みの終わる頃にはすっかり仲良くなれたという。そのことが夏休みの何よりの成果だったと喜んでいる。この努力を賞えたい。動物愛護の優しい家庭環境も受け止められる。

## ほご犬となかなけた夏休み

# 藤枝市文化協会会長賞

関森勝夫氏選

## 中学生の部

## 小学生の部

出雲 蒼大

岡部中学校・2年

〔講評〕

祭の会場である神社への参道には多くの屋台が並び、食べ物売っており、その臭いや混雑のひとときれが混り合って強く漂っている。混り合った物のおいによって祭の夜の盛況ぶりが表現された。祭の具体的な描写はないが、多くの人々が体験していることでもあるので納得出来る。参考までだが、江戸時代の句に「市中は物のにはひや夏の月 凡兆」がある。京の下町の盛況ぶりを雑多な匂いによって捉えている。

### 夏祭りいろんなにおいが入り混じる

山下 蒼馬

藤枝中央小学校・2年

〔講評〕

幹にとまった蝉を捕えようと、慎重にたも(網)をかぶせたのだが、蝉は一瞬にしてたものすきまから逃げてしまった。その生々とした姿を見上げている作者の姿が目につかぶ。「大空へ」の表現から自由を得た蝉のよるこびの感情さえもが受け止められる。

### セミがとぶたものむこうの大空へ

# 入 選 作 品

関 森 勝 夫 氏 選

## 一般の部

哀調も一瞬混じる蟬時雨  
波のプール子等いつせいに浮き上がる  
健在の母校の古木蟬しぐれ  
湿原にさび色の草秋の風  
走り書きの母の追伸つくつくし

藤枝市藤岡  
愛媛県喜多郡内子町  
藤枝市仮宿  
富士宮市  
秋田県能代市

大石 俊彦  
毛利 喜子  
加用 富夫  
甲斐ゆき子  
岸部 吟遊

## 中学生の部

富士山が入道雲からこんにちは  
夏の日の思い出光る日記帳  
汗だくの父にかけたい金メダル

藤枝中学校・1年  
青島北中学校・1年  
藤枝中学校・3年

中村 愛菜  
和田 采鈴  
今村 駿汰

## 小学生の部

炎天下走るぼくたち風になる  
夏休みのこるしゆくだいまないふり  
雨蛙水を飛び出し旅に出る  
水草のすき間にのぞくメダカの子

藤枝中央小学校・3年  
広幡小学校・3年  
青島小学校・5年  
広幡小学校・5年

長谷川蒼樹  
藤原 拓馬  
石上 春樹  
木村 美月

歴代化石賞受賞作品

第5回			第4回			第3回			第2回			第1回			大会回
平成19			平成18			平成17			平成16			平成15			年度
一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	部門
大竜勢月を掠めて上がりけり	まっすぐな線路の先に夏の雲	あまいももさわってびっくり毛があるぞ	語り合ふことも供養や秋彼岸	ひまわりと生きていきたいまっすぐに	虫おくりあつい火のこがぼくにとぶ	はるばると来て望郷の碑に涼む	さわやかにひざっこぞうをすぎる風	水まいてできたにじ橋一人じめ	身奇麗を常のこころに秋立てり	大きな手小さな手をひく夏祭り	秋の空羊がさんぼしているよ	みどりの日村に自慢の榎大樹	青い海白い砂浜夏が来た	赤トンボ見に来てくれた運動会	作品
小野多生	和泉原あかり	池田直樹	横山茂子	山内晴香	朝比奈大輝	影島智子	岩瀬卓也	柴田美優	石井みよ子	村越亮太	強瀬紗希	新川晴美	松下和弘	森田彩加	氏名
焼津市	葉梨中3年	焼津西小3年	三重県四日市市	藤枝中3年	朝比奈第一小2年	富士川町	青島北中2年	藤枝小6年	焼津市	岡部中2年	埼玉県岡部小5年	静岡市	大洲中2年	埼玉県岡部小4年	学校名等



歴代化石賞受賞作品

第9回			第8回			第7回			第6回			大会回	
平成24			平成23			平成21			平成20			年度	
一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学生	部門		
茶の銘は「天下」なり風薫る	法隆寺緑の中に溶けにけり	炎天下みんなどった優勝旗	太ようの中がかがやくぎんやんま	浴衣着て川の夕暮れ見てをりぬ	電線に音符のような稲すずめ	グランドにあせがちってるあとがある	富士登山夜空がきれいまた来るよ	洗い晒し身に爽やかや鍬担ぐ	雲海を泳ぎきつたり夢の中	かぶとむし木からおちてもまたのぼる	木苺を母が食べれば子も做ふ	勉強はちよつと休憩星月夜	エアコンがなくてもすずし祖母の家
磯部和子	実石理子	横山翔	下田理音	田崎とし子	鈴木奈々恵	谷口泰亮	小林悠斗	天野公江	小花海月	前田ひなた	笠原沢江	遠藤菜摘	溝口真加
藤枝市泉町	和田中3年	青島北小5年	青島東小3年	沼津市	焼津中3年	大洲小5年	岡部小3年	富士市	西益津中3年	西益津小2年	牧之原市	西益津中	大井川西小
											氏名	学校名等	

村越化石俳句大会

歴代化石賞受賞作品

第13回				第12回				第11回				第10回				大会回
平成28				平成27				平成26				平成25				年度
一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	一般	中学生	小学校高学年	小学校低学年	部門
堪ふること今は淋しき千菜汁	タンポポは未知の世界に飛んでゆく	いそがしい母にあげたい夏休み	夏休み最後の一日短いな	茶を摘みつ子の宿題の九九を聞く	豊の秋祖父の笑顔は花のよう	夏休みたたくつそうなランドセル	夏空にイルカのジャンプ金メダル	心眼で詠みし句胸に一夜酒	若鮎やうろこ光らせ瀬を登る	妹の笑顔はまるでひまわりだ	すいかわりぼくがきめるぞどまんなか	芋の露馴染みばかりの診療所	ふりかえる阿弥陀も見入る蓮の花	夏の夜ねころんで見た流星群	たべたいなふじさんみたいたいなかきごおり	作品
中谷貞子	三ヶ尻新	漆畑美心	櫻井秀	菅原末野	濱田歩	永井茉桜	服部芽依	高橋和子	山下美徳	藤本愛	板橋巧実	城所有子	秋山いぶ樹	永田藍	松浦鉄弥	氏名
北海道恵庭市	広幡中1年	小川小5年	青島小3年	榛原郡吉田町	東京都町田第一中2年	小川小4年	高洲小3年	静岡市葵区	藤枝明誠中2年	高洲南小4年	高洲小3年	藤枝市音羽町	焼津中3年	青島小5年	藤枝小3年	学校名等

歴代化石賞受賞作品

第18回		第17回			第16回			第15回			第14回			大会回
令和4		令和3			令和2			令和元			平成30			年度
一般	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	一般	中学生	小学生	部 門
読初の「端坐」に父の朱線かな	おにやんまかわのまわりをぱとろーる	田を植えて高根の富士を拜しけり	川遊び岩から飛びこみ初挑戦	元気だよ声だけで会う夏休み	見えぬ眼に見ゆるものあり新茶汲む	セミたちに負けるなわたしのペーターベン	笠地藏ひとみの中に舞う花火	端居して妻と余生のこと少し	初富士に負けじと波上げ駿河湾	あさがおにおみずあげるとにじがでた	雁渡るサイクリストは一列に	お日さまが会話している向日葵と	太陽の色ももったマクワウリ	作 品
古賀勇理央	山下蒼馬	大石容一	金原聡佑	田端優菜	橋本世紀男	萩原 遙	杉山大喜	大石容一	笹野陽介	鈴木彩世	内野義悠	高野颯太	市川真綾	氏 名
愛知県尾張旭市	藤枝中央小1年	藤枝市築地	青島中1年	藤枝中央小4年	東京都江東区	西益津中2年	青島小4年	藤枝市築地	藤枝中2年	藤枝小1年	埼玉県所沢市	岡部中1年	高洲小6年	学 校 名 等

# 心眼 魂の俳人 村越化石

除夜の湯に肌触れあへり生くるべし

昭和25年作

新年への希望。ハンセン病の特効薬プロミンの開発により、療友とともに奇跡的な薬効に浴して一年。生命感を初めて見だし、決意を詠んだ句。

闘うて鷹のゑぐりし深雪なり

昭和43年作

深雪に残った傷跡から、ひろがった鷹へのイメージ。俳句作りは気合い。気合いが奥にあるものを引き出す。この句は共鳴者が多く、私の代表作となった。

生きねばや鳥とて雪を払ひ立つ

昭和46年作

失明から立ち上がるも、私の日常はまだまだおぼつかなかった。

天が下雨垂れ石の涼しけれ

昭和51年作

林火先生に、この句は無欲の境地だといわれた。ぼつとんぼつとんという雨垂れの音、青苔のついた形のよい石を頭の中に浮かべた。

※掲載句の注釈は、村越化石句碑建立記念集「大龍勢」の自註句を参考にしました。



## 村越化石略年譜

大正11年	12月17日、志太郎朝比奈村(現・藤枝市岡部町)で生まれる
昭和13年	16歳でハンセン病発症、治療のため離郷。
16年	奈美と結婚、国立療養所栗生楽泉園に入園。
18年	本田一杉の指導を受ける。園の「栗の花句会」(後に高原俳句会)で、俳句精神を学ぶ。
23年	プロミンによるハンセン病の治療が日本で始まる。
24年	このころ化石さんもプロミンを注射。大野林火主宰の『濱』に境遇を隠したまま初投句。
25年	林火に境遇を打ち明けて、高原俳句会の指導を依頼する。
30年	片目の視力を失う。
45年	残る片目の視力も失う。
58年	第17回蛇笏賞受賞。
平成3年	紫綬褒章受章。
14年	村越化石句碑除幕式。60年ぶりに帰郷。
20年	第8回山本健吉賞受賞。
26年	3月8日 栗生楽泉園で逝去 91歳

## 〔投句数の推移〕

大会回	年度	投 句 数			
		小 学 生	中 学 生	一 般	合 計
第1回	平成15	1,417	704	671	2,792
第2回	平成16	673	802	553	2,028
第3回	平成17	932	858	360	2,150
第4回	平成18	851	1,041	426	2,318
第5回	平成19	1,105	891	434	2,430
第6回	平成20	1,180	1,199	380	2,759
第7回	平成21	1,913	964	402	3,279
第8回	平成23	1,118	505	442	2,065
第9回	平成24	966	598	418	1,982
第10回	平成25	1,048	781	453	2,282
第11回	平成26	1,155	768	506	2,429
第12回	平成27	1,154	744	418	2,316
第13回	平成28	1,339	787	418	2,544
第14回	平成30	726	638	354	1,718
第15回	令和1	884	1,542	308	2,734
第16回	令和2	1,005	749	308	2,062
第17回	令和3	1,361	1,405	212	2,978
第18回	令和4	1,433	1,597	404	3,434
<b>第19回</b>	<b>令和5</b>	<b>1,733</b>	<b>1,785</b>	<b>415</b>	<b>3,933</b>





〔石刻句〕

平成七年作

## 望郷の目覚む 八十八夜かな

望郷の句は私に多い。故郷を離れてすでに久しく、  
見えない眼の奥にいつも故郷がある。夏も近づく  
八十八夜は新茶の初摘みの頃、村中が茶の香りに  
つつまれるよき季節。  
生氣溢るる八十八夜は望郷とともに私の好きな  
言葉である。

村越化石

### 【俳句大会の経緯】

平成十五年(第一回) 「村越化石顕彰玉露の里俳句大会」開催

平成二十一年(第七回) 「藤枝市村越化石顕彰俳句大会」に名称変更

平成二十三年(第八回) 「藤枝市村越化石俳句大会」に名称変更  
実行委員会による運営体制へ移行

平成三十年(第十四回) 選者に有馬朗人氏と関森勝夫氏を迎え、  
新たな運営体制で再開、小学生・中学生の

部は市内在住・通学者を対象。

令和三年(第十七回) 選者に大串章氏を迎える。

### 第19回「魂の俳人」藤枝市村越化石俳句大会

### 入賞作品集

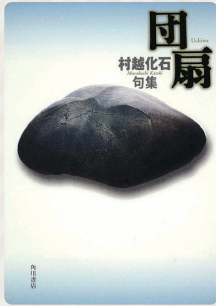
令和五年十二月十日 発行

編集・発行 藤枝市街道・文化課

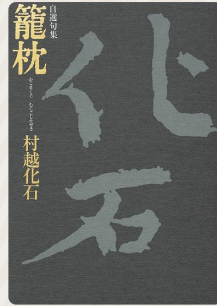
藤枝市岡出山一丁目十一番一号

電話〇五四―六四三―三〇三六

印刷 中央印刷株式会社



〔第九句集〕平成22年



〔卒寿記念自選句集〕平成25年



〔処女句集〕昭和37年



〔第八句集〕平成19年



〔第二句集〕昭和49年



〔第七句集〕平成15年

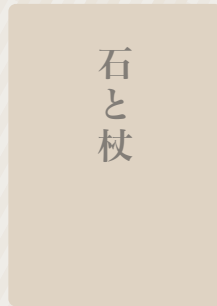


〔第三句集〕昭和57年

村越化石氏の句集



〔第六句集〕平成9年



〔第五句集〕平成4年



〔第四句集〕昭和63年